

令和5年度 園評価書

高部こども園

I 経営の重点に関わること 評価段階 (A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない)

1 教育・保育目	2 重点目標	評価指標	○園説明 △課題・☆改善策	中間自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	☆改善策(来年度の具体的取組目標)
心豊かでたくましかったかべっこ	夢中になって遊ぶ	子ども達は、「おもしろい」「なんでだろう」と考え、試したり工夫したりしている	○様々な物を使って工夫して遊ぶ姿が見られた ○遊びの面白さを友だちと共有したり協力しながら遊びを進める姿が見られるようになっている ○自分で必要な物を用意したり、保育者に「○○が欲しい」などと言いながら遊びを進めていく姿がある	A	A	・子どもらしく、元気がある。園に入ってきたり、近所で顔を合わせたりすると子どもの方から声をかけてくれる	・今後自ら「おもしろい」と試したり工夫したりする姿としてつながる関わりを認めていく
		子ども達は、自分の思いや感じたことを行動や言葉で表現し、夢中になって遊んでいる	○友だちと一緒に遊びを進めていく中で考えたことやイメージを伝え合いながら遊ぶ姿が見られた ○自分の思いを言葉で伝えることが増えた分、トラブルも増えてきた。そこから話し合いをする機会も増えている △夢中になるものは一人一人違うので夢中になる物、遊びを見つけしていきたい	A	A	・子どもが他のクラスの子どもにも目を向けられるようになり、刺激を受け、手伝ってあげる姿があった(年長児の遊びを見て、真似してやってみようとする憧れの気持ち)園全体の育ちやつながりを感じる	・自分の思いを伝えることがうまく出来ない子もいるため保育者が一人一人に寄り添い、伝える力を身に付く関わりが必要である
		子ども達は、「もっとやりたい」と自分から体を動かして意欲的に遊んでいる	○自分なりに「出来るようになりたい」という思いをもって繰り返し取り組む姿があった ○年長児への憧れの気持ちが強くなり「そら組さんみたいになってみたい」と挑戦する姿が増えた ○出来るようになった自信から「もっと」という気持ちにつながっている △失敗を恐れて挑戦することに躊躇してしまう子もいる	A	A		・体を動かすことを楽しめる遊びを保育者自身がもっと知り、子どもと一緒に楽しむ中で子どもが楽しさを感じられるようにしていきたい

大項目	中項目	評価指標	園説明	中間自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	☆改善策(来年度の具体的取組目標)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一環した教育及び保育	職員は、各年齢の発達を捉え、子どもの行動や発見を認めたり、励ましたりしながら良さに目を向けるような援助をしている	○画像での園内研修を通して子どもの姿を肯定的に捉える目を持つことが学びになり保育者に広がった ○保育者が全園児に目を配り、子どもの良さを認め保育者同士伝え合ったり子どもにも良さを伝えたりしている ○発達に合った物であるかの確認(共有)が足りなかったこともあった	A	A	・劇遊びの中で自分の出来ることをみんなの前で披露することで「褒められる」「認められる」経験が自信となっている。 ・保育者が子どもを「褒める」「認める」ことが子ども同士で認め合える姿になっている。	・歳児の発達を超えていないか、経験させたいことはどこかなど会議などで話し合い実践していく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	職員は、異年齢での活動においては、その発達や経験の差を十分に理解し、適切な環境構成や援助を行っている	○異年齢で過ごす中でそれぞれが気持ち良く生活できるように見守りや仲立ちを心掛けた ○2号児の保育でも発達や個別に配慮の必要な子に対して担当保育者がきめ細やかな対応をしている ○異年齢間で刺激を受け合いながら遊びを進めていくことが出来るように場を作っていると共に各年齢の遊びの拠点となる場も作られている ○年長児と年中児との交流が深まり、次年度につながる関わりをしている	B	B	・普段の遊びの中でも友だちとのアイデア、良いところなどを認め合っている。	・異年齢との関わりを増やしていき交流を深め様々な遊びへの興味関心を広げていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	職員は、子ども達が考えたり、試したりしながら、夢中になって遊ぶことができる環境構成や保育の工夫をしている	○子どもの遊びを把握し、子どもと一緒に楽しみなが共感したり試行錯誤しながら遊びを進めていくことが出来るように環境を工夫していった ○各学年の拠点を作る為に重ならないようにしたり、遊びの発展を考えすぐに再構成をしたりしていった	A	A	・「ありがとう」「どういたしまして」などの言葉が自然にでている。言葉の美しさがある	・季節に合った遊びの工夫をし、その季節ならではの遊びや自然物を使って遊びを楽しめるようにする
2 安全管理・指導	(1)事故防止	園は、ヒヤリ・ハット場面を通して分析し、予防対策をしている	○危険な場所や物についてすぐに報告、共有したり、ヒヤリハットの記入をし、まとめた物を共有している △職員間で検討し合う時間があれば良かった(振り返りの時間を利用する)	A	A	・ヒヤリハットの事例が起きた時には今後、事故を防ぐ為にも確認と分析が必要	・ヒヤリハットへの意識を高められるように起きたらすぐ書く
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	園は、保護者と連携しつつ、手洗い、排泄等の基本的な生活習慣づけや感染対策をしている	○子どもの体調について保護者と共有すると共に、子どもに手洗い、うがいを意識して行えるように声掛けをしていった	A	A	・支援の子にとっては個別の支援を丁寧に関わってもらっている。それが子ども同士にも広がり、優しい関わりがある	・個々に応じて丁寧に保護者に伝えたり関わったりしていく必要性がある(排泄面)時期や伝え方の工夫をしていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の発達に合った支援計画を作成し、園全体で共有し良さを捉えた関わりを重視している	○一人一人の伸ばしたいところを考え、サポートプランを作成し、声掛けや支援をしていった △個々に合わせた最適な環境の工夫について考え、園全体での共有が少なかった	B	A	・会議の仕方や伝達の仕方など様々な職員がいる中で難しさもあるが話し合いをする中で職員同士のコミュニケーションにもつながり、保育も伝わっていく	・加配児や気になる子などについて話し合う時間を月1回のケース会議を開く
5 組織運営	(1)組織体制の充実	園務分掌のリーダーを中心に取り組み、情報の周知をしている	○計画を立て、会議で話し合いや企画書で共有している △全体に伝わりづらいので会議や伝達の仕方の工夫が必要	B	B		・次年度は朝打ちノートやホワイトボードの活用をしていく ・見直しをもって計画していく
6 研修	(1)研修体制の充実	園は、週1回の会議を行い、遊び環境について検討し夢中になって遊べる環境構成につなげている	○遊び環境について各学年の園庭の使い方や遊ぶ場を共有し、遊具の置き場所など必要に応じて移動している △会議が計画通り行えないこともあった △参加出来ない職員への伝え方が不足していた	B	B	・行事などで(こども新年会)外部、近隣の人などの力を借りると、いつもと違った刺激になって良い	・職員が発言できるよう少人数での会議の場や進め方を考えていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	年齢の発達に応じたその時の興味関心に応じた環境を構成したり、教材を準備したりしている	○子どもの興味・関心を捉え再構成や教材の提供、遊びを考えている	A	A		・保育者自身が様々な教材に触れ、試したり、遊び方を考えたりしていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園だより、クラスだより、毎日のお便りボード等により、園の取り組みや園の様子を伝えている	○送迎時に園での様子を直接話をしたり、ボードを使ったりして伝えている ○伝わりやすいようなお便りの発行を心掛けた	A	A		・行事の時は職員がフォローに入るなど工夫してタイムリーなおたよりやボードを出せるようにする
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園・近隣校との連携を図り、情報交換や研修を進めている	○近隣園と交流し、遊びを通して新しい友だちや同じ小学校に進学する子ども同士、関わりを持つことが出来た ○公開保育で情報交換ができた	B	A		・療育施設や小学校との関係を深め、協働して園や子どもも理解につなげていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	豊かな体験が得られるよう、地域の様々な人との関わる機会を大切にしている	○田んぼの活動を中心に地域の人と関わったり農の活用方法を教えてもらったりする経験が出来た ○園外に出かける機会が多くなり、地域の方に「こんにちは」などと自分から挨拶をする姿も増えてきた ○勤労感謝を通して地域の方へ感謝の気持ちを深めるきっかけとなった	A	A		・引き続き園外に積極的に出て行き、行事などで地域の方の力を借りながら地域とのつながりを深めていきたい